

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 滋賀県東近江市立五個荘中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒529-1422
滋賀県東近江市五個荘小幡町227
 E-mail : gokachu@higashiomi.ed.jp
 Website : http://www2.higashiomi.ed.jp/gokachu/
 児童生徒数：男子 205名 女子 213名 合計 418名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (ボランティア活動)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

五個荘中 いつまでも応援します東北支援プロジェクト 結 ～太く長くつながろう～

1. 目的

- ・震災発生以来、三年間続けた交流とボランティア活動の絆を繋げる。
- ・昨年に引き続き東北被災地訪問をし、現地の人との交流や見学などで、現在の様子を知る。
- ・昨年の経験を活かし、現地の人に役立てる支援活動を続ける。
- ・被災と復興の様子を校内外に報告し、復興支援の輪を広める。

2. 日時

- ・2014年8月4日(月)～7日(木)

3. 当日までの日程

- | | |
|-----------------|---|
| 6月5日(木)～13日(金) | ・東北訪問参加者募集期間・スローガンやTシャツのデザイン募集 |
| 6月16日(月) | ・参加資格課題〆切 |
| 6月17日(火)～20日(金) | ・参加者決定 |
| 6月23日(月)～ | ・起き上がりこぼし作成(福祉委員会・実行委員会)・東北被災地訪問の事前学習・班編制など |
| 7月7日(月) | ・全学級で「起き上がりこぼし」に貼るシール制作 |
| 7月8日(火)～17日(木) | ・募金活動 |
| 夏休み～ | ・校外の募金活動・起き上がりこぼし |
| 9月26日(火) | ・文化祭で報告・発表 |
| 11月3日(月) | ・五個荘地区青少年育成大会で報告・発表 |
| 12月6日(土) | ・東近江市青少年育成大会で意見発表 |

4. 訪問について

- | | |
|---------|--|
| (1) 日時 | 平成26年8月4日(月)～8月7日(木) |
| (2) 訪問地 | 奇跡の一本松(見学:岩手県陸前高田市気仙町砂盛)
大船渡中学校(交流:岩手県大船渡市大船渡町字永沢94-1)
永沢仮設団地(訪問:岩手県大船渡市大船渡町)
小白浜仮設団地(訪問:釜石市唐丹町小白浜)
橋野地区(菜種刈りボランティア:岩手県釜石市橋野町)ほか |
| (3) 参加者 | 五個荘中学校1～3年生生徒(志願者)30名+大人6名 |

(4) 行程

月	日	時間	内 容
8	4	16:30 17:00	出発式 出発 車中泊
	5	7:00 9:00 10:00 12:13 14:00 15:00 15:30 16:59 17:13 17:30	奇跡の一本松 大船渡中学校訪問 交流 永沢仮設団地訪問 盛着 昼食 三陸鉄道南リアス線乗車（震災学習列車） 唐丹駅着 小白浜仮設団地訪問 唐丹駅発（三陸鉄道南リアス線） 釜石駅着 陸中グランドホテル 泊
	6	9:30 11:30 16:30 18:00	鶴住居地区（菜の花プロジェクト 菜の花刈り取り作業） 釜石駅 解散（班別行動） 復興商店街散策 陸中グランドホテル 集合 入浴、夕食 陸中グランドホテル発 車中泊
	7	7:30 8:00	五個荘着 到着式 解散

・活動のねらい

本校生徒会では「東日本大震災」直後に、『救援募金』を集めて被災地へ送った。募金だけでなく、こころを伝えようと検討を重ね、折った小さな鶴を瓶の中につるして飾る『瓶鶴（びんづる）』を全校生徒が分担して作り、被災した中学校へ送ることを考案。全校生徒が1万羽近い鶴を折り、『瓶鶴』にメッセージも添えて東北三県の67校にその年の秋に送った。

多くの学校から礼状や写真、DVD等が返ってきた。生徒会執行部で返事を分担し、再度送り、生徒会同士の絆が生まれ、育っていった。

二年目の一昨年度も生徒会執行部のメンバーは代替わりしたが、生徒の「支援を続けたい」との意向を尊重し、学級で作るメッセージボードの取り組みを企画し交流を続けた。

三年目の昨年、被災地もそれなりの落ち着きを取り戻している頃で、中学生が直接、現地へ赴き、中学生同士の交流が深められないか考えた。生徒との話し合いの中で「復興をこの目で確かめたい」「支援がどう受け止められているのか知りたい」との声が上がった。そこで、

- ・いつまでも応援しますとの思いを東北に届ける。
- ・応援メッセージに対して大変なのに丁寧な返信をもらったお礼を直接言う。
- ・今までの生徒会の取り組みが現地の人にどれだけ届いたかを知る。
- ・まだ、人手を必要としている所に行って、復興ボランティアに参加する。
- ・被災と復興の様子を見、ボランティアを体験して、肌で感じた、防災と復興の何が大切で何が必要かを校内外の人々に伝える。

の目的を持った、生徒、生徒会執行部、教師、保護者代表からなる「五個荘中いつまでも応援します東北支援プロジェクト実行委員会」を立ち上げた。

そして平成26年度「今年も行くぞ」と生徒会中央執行部を中心に昨年度の活動の成果と

反省を踏まえて、「いつまでも応援します五個荘中東北支援プロジェクト 4014」を立ち上げた。

・活動のポイント

- ・東北大震災当初から全校生徒で、ずっと支援を続けている一環の事業
- ・生徒の手により、被災地の中学校に思いを届けることができた。
- ・被災地の現状と復興の様子を実際に見ることができた。
- ・被災地の中学生と直接交流がはかれた。
- ・被災地中学生の気持ちを垣間見ることができた。
- ・被災地ボランティアが体験できた。
- ・東北で見たもの、感じたこと、思ったことを全校生徒と地域の方に広く発信する。

・活動の成果、反省点

被災地のみなさんには「いつまでも応援し続けます」と約束し、帰路についた。参加した生徒は強行スケジュールにもかかわらず、一人も健康を損なうことなく元気に帰校した。今年もまた違った現地で多くの現実に圧倒され、感じ、考えることができた。

また、11月の支援メッセージ発送後、送付先の中学校からお礼の電話、手紙などの返信を受け、さらに絆はつながった。完全に復興叶うまで、絆はつながり続けるよう「これから、我々はなにをすべきか」の答えを求めてさらに多くの人を巻き込んで考え続けたい。

さらに見てきたことと経験を他の生徒や地域の人々に発信する使命を持って帰校後の活動に入った。文化祭や地域の催しなどでの報告・発表をおこない、全校生徒・地域住民にも心の支援の輪を広げる事ができたものとする。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()